三池炭鑛
◎この機關紙は大牟田地區勞組の共同編集です◎

発行所
三池炭鑛勞働組合
大牟田市不知火町
電話3033番
炭電 524 / 474 番

編集兼発行人　山本博實
三鑛勞組印刷工場

三鑛勞組
機關紙

細谷市政の破綻を衝く

大地評政治局の地方議會報告會

縣政・市政への関心高む

△大正六年市政施行以来三十八年間、三井を頂点とした市政の執行は、三井の番頭共によつて、何の障がいもなく、三井のための三井の政治をおこなつて来た。ところが本年四月選挙で勤労大衆を結集した市長と議員多数が登場して来た。このことは必然的に対立を呼び、保守派の卑劣な策謀は細谷市政を窮地に立たせ、労働者のフンゲキを買つているが、この保守派と斗つて来た革新クラブは、十二月から開かれた大地評政治局地方議会報告会で細谷市政の窮状を訴え、真相をバクロした。

△市会が荒れると「そんなに紛糾してかるべきである。なくとも」と言い、何かそれが罪又愛市運動という市民チョロマ悪でもあるかの如くいう者が未だ多い。情ない話だが、考えてみると、三十八年、否それ以上の長い期間にわたつてつちかわれて来た三井に奉仕する政治を、人民のための政治とする胎動であるとすると、それ位のアツレキはあつたり会期延長を行い、ようやく十一日開かれた市会は、二回にわ市政に近づけたことになり、主権在民の市政がどうあるべきかに八日結署を見たが、その間連月、

新聞はこの問題を採り上げ「今度の紛糾の中心問題は法人税率だ」「いや特別報償金問題だ」「真相は人事問題だ」と報道、市民に大きい疑惑を投げかけたことは、大牟田市民を一歩

△金属協議会や各種委会員は公開出来ないものだろうか。
△新地アパートの譲渡の話を聞くが絶対譲渡しないでもらいたい。
△住宅がどうしても足りない。
△赤字解消にはどうしてもならないものだろうか。
△民生委員の俸給をもう少し何とかならないものだろうか。
△農業指導員の残業や公休出勤手当は必ずやつてくれ。
△三池町や白川附近の水害問題。
△未広町一帯の水害や道路が悪い何んとかならないか。
△プールを作つてくれ。
△農業指導をもつと組織的にやつてもらわないと困る。
△公民館の集会でさえ、こんなに集らない。今後も引続いて報告会を持つてもらいたい。
△議員諸公も一つ一つメモに書き止めていた。

公民館より集りがよい

今後も是非報告會を

議員さん達も「今後は同様のケースで行わねば前の答弁も出来ないので、同じケースで今後もやつてほしい。市民がどんなことを考えているかよく分つかめなくては真の市政は行へない」

「色々と教わることが多い。市と県は問題を突つ込んでいくと解する処が多い問題があるので、今後も県、市議会を同時にやつてもらいたい」

〔上〕市政報告を行う堀市議
〔下〕県政報告をする川口縣議

書記局便り

十二日　総務部長会議
　　　　臨時三鑛連委員長来山
十三日　炭鑛協支部長会議
十五日　十年史編さん委員会
十六日　生産中央審議会
十六日　支部長会議

町から村へ

全市に亘り集會を

十一月十九日の革新クラブ議員団の再明書に対し、十一月二十五日公正会議員団の市民の公正なる批判に訴うなど、ビラ合戦も行われたが、この問題に対しても「泥試合との酷評もあるが、これとて見方によつては前記同様にとれる。その後革新議員団は十一月市議会を自己批判し、議会闘争を更に地につける必要を認め、市民との話合いを目的に市政報告会を、十二月十二日から十六日まで傍地から町へ十五カ所にわたつて行つた。夜冷えと正月前とはいえ、従来、かつて経験しなかつた程聴衆心で、夜の十時、十一時まで質問が続き、成功裡に第一回定例報告会を終つた。

たものと思われる。

三、七五〇円獲得へ

自労最後の追撃

自由労組では、越年資金三、七五〇円を、十一月の定例市議会に対し諸令、学歴、前職、出身地、家族構成、勤務形態、寮、自宅社宅）
2、労働条件、自然条件、社会条件
3、組合運動の一般的推移（当時の客観情勢）
イ、創生期
ロ、二・一ストまで
ハ、ドッチラインまで
ホ、六・三百ストまで
ヘ、企闘終結まで
ト、企闘後の闘い、現在まで
チ、結び

第二編　前各項中の内容から三池を中心として詳述

象徴は！あかつき！号

固まる、組合員家族の團結

三染勞組の闘争

三染勞組は、期末手当闘争を終るなかではげしい立上りを見せ、同勞組の闘争力の一よくに加わり、八月の執行部改選の新鮮力をもつて今度の上期末手当闘争にのぞみ、要求に近い回答をひき出す一方、長欠者や退職者への期末手当上の保障さえ勝ちとつている。

その間メーデーには多彩な仮装をおさめている。更には期末手当闘争に参加、闘いに参加ともつて婦人子供主ぞ

この余勢をかつて地方選挙にのぞんだ結果、二市議ほか、細谷市長なども地方選にも勝しい成果をあらわれたのであり、すでに〝あかつき〟号は次の闘争の呼びかけ増加を示す現実から、このままでは、地方選挙は朝学校、昼学校の難をまぬかれ、市議会は

一九五五年を顧みて

張主

この一年間大牟田の労働運動は著しい足跡を残した。

二月八日の大単産大牟田地方共闘会議を出発点とした春季賃上げ闘争は、二月二十日の政策要求国民大会、三月十二日の教育を守る市民大会更には頂点となつた三月二十日の春季闘争総決起大会と、三回にわたる賃上げ、しかもその度毎に共闘は広められ、四月十八日の東庄妥結まで十一回にわたる共闘会議を持つて闘争推進に当り、幾多の欠陥はあつたが、一応日本の西の拠点としての地歩を築いた。

×

これと併行的に行われた各種選挙も、一月八日の選挙対策委員会以来四月三十日まで、十二回の選対会議と、六回の社大合同職術会議ならびに四回の選挙事務長会議等を持ち、綿密な運営と、働く大衆の腐れ切つた政治に対する不満の爆発とが両々相俟つて、国会議員から村議まで四十九名を公認あるいは推薦し、四十一名を当選させた。

中でも従来発言せんに保守の手中にあつた大牟田においては、市長を当選させ、更に市議も一挙に十五名を送り出し少数与党たりとはいえども第一党を獲得した。

×

メーデーは一月二十八日の実行委員会以来六回に及ぶ会議をもち、大牟田における支配権を明確に獲得する自信の上にたつて企画された。そして戦後最大の動員を闘いとり、企画どおり働く大衆は「同志細谷当選」の勝鬨乱れ飛ぶなかを、大牟田の主権者らしく、六列縦隊で、ガツシリと大地を踏みしめながら整然と進んで行つた。

×

七月に入ると各地に平和の種国民的反対を強硬に押し切つて国会を通過した。石炭合理化法も、三鑛連の一四三日の闘いで淡成立後四カ月でユーレイとなる平和宣言を満場一致決定、戦災者慰霊祭、平和講演会、平和の夕などが盛大に行われ、特に八月六、七両日の原爆投下の時刻には全市にサイレンが鳴り渡り二十万市民は一分間にわたり、平和への祈りを捧げた。

×

九月に入ると商店界に胎動の兆しがあらわれ、遂に十三日には革新商店連盟発足、これに刺戟されてか、中間層が再び聚連から大衆脱退するなど大牟田の商業界も再編のコースを走り始めた。

一方、一部石炭業者に操られ国会を通過した。石炭合理化法も、三鑛連の一四三日の闘いで淡成立後四カ月でユーレイとなるなど…

×

このような華やかな成果の陰に、これ等の悪徳に浴しない七千名に及ぶ未組織の兄弟たちがいることを忘れてはならない。これらの人達は戦前、戦時中そのままの労働条件の下で働かされている。この一年間われわれはやつと五つの組合の組織化を助成したに過ぎぬ。

又一方四千六百名の臨労は、年々増加の一途をたどつているこの問題に対しても抜本的な方策をたて、生産業務に帰着する方法を早急に樹立しなければならない時期が間近かに迫つたこれこそ来年の重要な課題ではあるまいか。

三鑛勞組十年史

編纂委員會発足

苦難の十年と自己批判を集録

三鑛勞組は、組合創立十周年記念元（本所）、島田（興作）、山下（興業）、その集約を行うことになつている。

行事の一環として、行事予算百五（港務）各支部長、決議機関から十万円の中に図書費（十年史機関）林（三川）、松井（四山）、那須紙特集号発行）三十四万五千円を（宮浦）、高田（本所）川口（興組み、三鑛勞組苦難の十年を一冊作）、小山（港務）の各委員、九にまとめ、三鑛勞組の闘いをふり大からは奥田助教授ほか一名が出かえり、その中から三鑛勞組のお席して、編集方針について懇談を かれている現状認識を深め、今後重ねた。

いかにして前進すべきか、などをこの十年史から学びとり得るよう組合創立以来の資料の収集が行われ、九大奥田助教授などの協力のもとにその準備が進められていたが、十周年記念行事予算については十二月八日、中央委員会の承認決定を得、各支部は決議機関から各一名の編さん委員を選出した。

第一回十年史編さん委員会は、十二月十五日午前十時から組合本部で開かれ、本部から宮川組合長、花園次長、山田教宣部長、高田教宣部員、支部から谷端（三川）、浦野（四山）、野方（宮浦）、塚

なお、こんどの目標としては二十一日から二十三日までを、各支部独自の問題について資料をまとめ二十八日に第二回編さん委員会を

三鑛勞組十年史編さん（案）
前　文
第一編　総　論
◎結成前の動向（…三井の勞務政策…）
◎結成より現在までを各段階に分類

臨時工との合同は

全國的に進みつゝある

十一月二十八、九日、東京において開かれた臨時工組合懇談会は未組織、組織された臨時工組合の闘うための組織確立をどうするか、臨時工はどのような実態にあるかをお互いの体験となやみを出し合つて討論する会議であつた。

南は九州、北は北海道より、約一千名の代表があつまり盛会であつた。この会議に出席した東庄勞組砂川支部長多田勝一氏の報告はつぎの通りである。

山の上事件判決は十二月三日、福岡地方裁判所で、藤井裁判長から解を得て、山本、森田、古賀、松原四氏の無罪を勝ちとるために上訴申立がなされ、それぞれ言渡しがあつたが、その訴を決定し、弁護団でその準備を厚い組合では九炭労、中央炭労の諒進めていたところ、無罪の判決を

池田氏検事控訴さる

山上事件　第一審では無罪

うけた池田昭二氏（三川）に対して十二月十二日附で検察官から控訴申立があつたと、十三日福岡地裁から通知があつた。

組合では、これに対する準備を直ちに始め、金員無罪獲得の闘いを更に強力に推し進めることになつた。

一部授業はゴメン

＝31年度市教育予算を十分に＝

教職員組合では、このほど昭和三十一年度に必要な教育予算額を調査し、市当局に要求書を提出した。近年、教育予算の市一般会計に占める比率は減少し、これに伴つて

PTA、校友会等からの市民の直接負担が増大してきているのは、特に義務教育の本質からして甚だ寒心であり、明年大牟田市における小学校児童数は二、一八六人の増加を示す現実から、このままでは、

十一月二十八、九日、東京において開かれた臨時工組合懇談会は未組織、組織された臨時工組合の闘うための組織確立をどうするか、臨時工はどのような実態にあるかをお互いの体験となやみを出し合つて討論する会議であつた。

南は九州、北は北海道より、約一千名の代表があつまり盛会であつた。この会議に出席した東庄勞組砂川支部長多田勝一氏の報告はつぎの通りである。

各臨時工組合の報告

◎金駐勞臨時工組合
　綿組合（本工）と一緒になつて闘つているが、生活が苦しい。何といつても雇傭期間が短期で不安だ。軍関係のために一般民間や金官公労と違つた苦しみがある。
◎全国治勞臨職組
　地方財政が赤字で軍事予算のシワよせのため賃金は低い。二十年も働いて本採用にならず、退職手当も何もない、職場の片スミで臨職という名のもとに日陰の生活だ。
◎八幡製鉄現業勞組
　約一万名の臨工組合だが私達は綿組合に負けない闘いを続けていた。現業勞組だけでストをやり数々の成果をあげてきたが、まだまだ満足ではない。ねばり強く本工組合と一体になる運動をすすめている。
◎日水小名浜勞組
　年間首切りとか苦しい闘いをつづけ、臨時工を社員に採用させた特別事情のあるものだけが働けるなど地方選にも勝しい成果を

(1)臨時工撤廃と雇傭条件の安定の闘いのためには本工と臨工の合同が必須の条件である。
(2)積極的に合同を呼びかけていく
(3)自らの力を養い階級意識を高めることが条件だ他力本願でなく自分達だけでも闘える体制が大事である。
(4)総評は臨時工の専門的対策本部を設け確固たる方針を打出し全国の本工勞組と全組合員に組織確立のため呼びかけをやれ。
(5)この全国懇談会を協議会に発展させ地方毎に臨工の連絡を密にして助け合うこと。
(6)法の盲点をついて行われる、これら臨時工の雇傭条件を全国民にしらしめ、政府の弱い者いじめの政策をバクロし、私達の政治をうちたてる闘いを進める。

こうして耳目をおどろかし、地方運動者の間に活躍しては、地方税の合理化、運動列車ダイヤの改正PTA、校友会等からの直接負担が増大してきているのは、特に義務教育の本質からして甚だ寒心であり、明年大牟田市における小学校児童数は二、一八六人の増加を示す現実から、このままでは、

学校費用費についてはPTA予算額の約四十五％が教具教材、給食費等、当然市費で負担すべきものを支出し、これは決して増額の傾向にあるので、これは見合う額を計上すること。その他五項目にわたつて具体的資料をつけて要求したものである。

東庄勞組と高勞會

合同遂に成る

より深まる團結への理解

東庄勞組と高勞會との合同は、十二月十四日、十五日の無記名投票により実質的合同はなつた。東庄はもちろん日本勞働運動史上かがやかしい成果であつた。

資本攻勢のキビシイ情勢下にあつて、労働者は団結しなければ〝生活の向上〟は望めないことを自覚し、東庄勞組、現務員高勞会とも

三年ごしの懸案問題であつた東庄勞組と現務員高勞会との合同準備委員会を開いた。

合同の問題點

第一回合同準備委員会では、次の問題点が双方から提示された。

(1)なぜ合同せねばならないか（合同の必要な理由）
(2)社員、現務員の勞働条件が違う合同後、闘争の場合足手まとい にならぬか。
(3)組合費について女子組合員を考慮しないか。
(4)現務員から役員、委員を出したい。
(5)合同後、勞組に加盟しない高勞会員が出た場合の処置はどうするか。
(6)合同後、現務員に首切りが出ないか。
(7)高勞会書記の取扱い。

以上の諸問題について慎重に話合い〝生活を向上させるため〟の唯一つの道は、勞働者が巾広い戦線の統一と強い団結力をしめすことであり、これ以外に道はない。勞働者自体がお互いに相容れない「水と油」であることは絶対にない。

従つて、このような基本的な問題疑問点については直ちに職場オルグによる啓蒙を行うことになり双方で職場活動を展開した。

開票結果報告

十四、五日に行われた合同賛否の無記名投票の結果は、つぎの通りである。

組合員総数　六三一名
総投票数　五九〇票
合同する　五三七〃
合同しない　五九〃
白紙、無効　四〃

高勞会規約第十九条により「合同する」ことに決定。

〔上〕職場での啓蒙情宣　〔下〕大会で提案する紫牟田高勞会長

革商連はあなたのお店

銀座地區「チケット」指定店
専門
シヨール　ネクタイ
マルノウチ
マフラー　スカーフ
銀座通り　電話3183

服地と呉服の
吉岡呉服店
松屋東側
電三六七一番

高級靴・カバン
革手袋
フルセ
松屋前
電話三〇四八番

婦人子供服
はとや
松屋東側
電話5303番

子供オーバー、学生服、メリヤス
ジャンパー、ズボン
各種洋品
古賀洋品店
銀座通り
電話四一一九番

服地の
ひらのや
松屋東側
電話4118番

銀座地區「チケット」指定店